



Yukio Miyashita
やまなみ工房／ATELIER YAMANAMI
1973 年生まれ、滋賀県在住。1997 年より『やまなみ工房』所属。
几帳面な性格で、日々のデータ管理を欠かさず、作品にもその緻密さが表れている。
絵画では升目一つずつ丁寧に塗り、制作に1 年かかることも。
英字新聞の文字を一字ずつ書き写すなど、創作というより“作業”に近い。
真面目に取り組む姿は、まさに職人そのもの。

立命館大学生存学研究所
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
Phone 075-465-8224 Fax 075-465-8245
E-mail ars-vive@st.ritsumei.ac.jp

 立命館大学
生存学研究所
www.ritsumei-arsvi.org/
 アクセス
www.ritsumei-arsvi.org/
page-33/

2025 年 10 月発行

arsvi.com

このサイトは、故・立岩真也さん（元・立命館大
学生存学研究所 所長）が1996 年に立ち上げたウェブ
サイト「生命・人間・社会」をもとに 2002 年にリニ
ューアルされました。
以来、「障老病異」にかかわるさまざまな記録をコ
ツコツと集め続けてきました。いまでは、こうしたテ
ーマに関する社会的なアーカイブとして、世界で
もトップクラスの規模を誇っています。日本国内は
もちろん、アメリカ・韓国・中国・台湾など、世界中
からたくさんの方にアクセスいただいています。気にな
るテーマがある方、研究や実践のヒントを探して
いる方、ぜひこのサイトを活用してみてください！

 生きて存るを学ぶ
arsvi.com
www.arsvi.com/



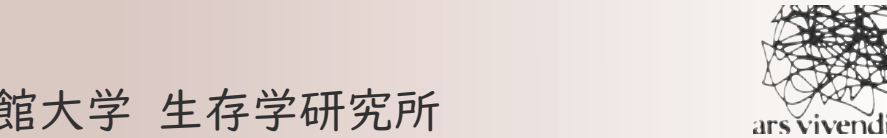
応援する

「生きて存るを学ぶ」未来へー
あなたも、「生存学」に参加してみませんか？

私たちの歩みには、みなさん一人ひとりの関心や声、
そして支えが大きな力になります。市民の方の思いや
経験、学生のみなさんの素朴な問い、当事者の方が
語ってくださる日々の工夫や気づき。そうしたひとつ
ひとつが、「生存学」という知の世界を一緒につくって
いく土台です。ご寄付などのかたちで応援していただ
くことも、私たちの活動の大きな力になります。これ
まで以上の積極的な活動のためにも、皆様からの支援
をぜひお願いいたします。

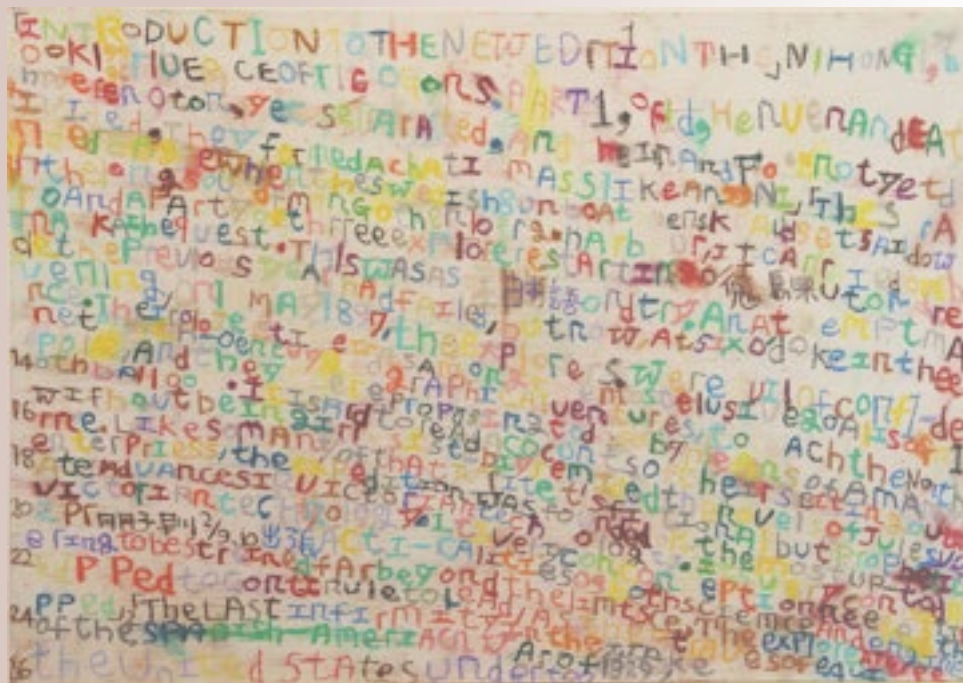


応援する
www.ritsumei-arsvi.org/
donation/



立命館大学 生存学研究所

Institute of Ars Vivendi, Ritsumeikan University



生きて
存るを
学ぶ

病い、老い、障害とともに生きること。異なりをもつ身体。
それは、福祉や医療の対象である前に、人々が生きていく過程であり、
生きる知恵や技法が創出される現場です。
人々の経験を集積して考察し、社会との関わりを解析し、
これからの生き方を構想し、あるべき世界を実現する手立てを示す
——それが「生存学」です。

研究所概要

Research Institute Overview

生存学研究所とは？

立命館大学生存学研究所は、「障・老・病・異」つまり障害や老い、病や他と異なっている心身のあり方など、誰もが人生の中で出会う可能性のある経験を起点に、「生きて存ること」を問い続けてきました。

研究の対象は、医療や福祉の学問や制度にとどまりません。たとえば、病気とともに暮



らす日々、身体の不自由さを抱えながらも働き、生きていく工夫、老いや死と向き合う中で語られる声。それら一つひとつが、私たちの社会を考えるための大切な智恵や技法です。

当研究所では、そうした「生の現場」に根ざした知を大切にし、研究者と当事者、そして市民がともに考え、学び、発信していく拠点を目指しています。

これまでのわたしたちの活動

2007年の創設（当初は「生存学研究センター」）以来、生存学研究所は多数の外部からの客員研究員の方々に協力をしてもらっているほか、これまで400回以上のシンポジウムやセミナー等を積極的に開催してきました。障害や病とともに生きる当事者の声を中心に、研究者、医療・福祉関係者、そして一般の市民と学生が一堂に会し、「ともに生きる社会」をつくるための対話を続けています。また、国際的な交流にも力を入れており、アジアやヨーロッパなど、海外の研究者や当事者との共同研究やイベントも数多く行ってきました。



客員研究員の国内外別統計、イベント実施回数

客員協力研究員数 ※（）内は国外の客員協力研究員				
2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
113 人(8 人)	111 人(4 人)	119 人(11 人)	112 人(7 人)	124 人(11 人)
シンポジウムなどイベント実施回数 ※（）内は国際イベント or 海外所属者参画イベント				
2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
8 回(3 回)	7 回(1 回)	14 回(4 回)	6 回(1 回)	17 回(8 回)

2025 年 4 月 1 日現在

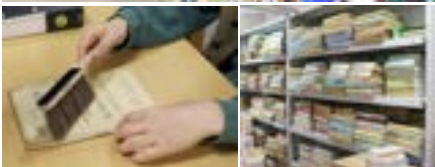
4 つの重点活動

Four Key Activities

記録を未来につなぐ --生存学アーカイビング

わたしたちは、障害者運動の資料や当事者団体の発行物、医療・福祉に関する文書など、さまざまな資料を長年にわたって集めてきました。2万冊を超える関連書籍に加え、全国の団体が編集した機関誌やニュースレター、政策にかかわる資料など数万点以上を保管しています。

今後は、重要資料のデータベース化と可能な限りの Web 公開を進め、貴重な情報をより多くの人に活用してもらえるようにしていきます。また、視覚障害等のある方に向けて著作権法に基づいた資料の複製・送信も行える機関として登録済みで、アクセシビリティの向上にも取り組んでいます。



01 生存学 アーカイビング

国境を越えてつながる --東アジア生存学拠点形成

東アジアの障害学の研究者、実践者、そして当事者が一堂に会する大切な場として、「障害学国際セミナー」があります。2010年に、わたしたちと韓国の研究者との協力から始まり、2014年からは中国、2016年からは台湾も参加。今では4つの地域が協力し、毎年継続して開催しています。英語に不慣れな人でも安心して参加できるように、日中韓の同時通訳を導入しているのも、このセミナーの大きな特徴です。国や立場を越えて、ともに学び、ともに考えるためのつながりを広げていきます。



02 東アジア生存学 拠点形成

誰も取り残さない社会デザイン --支援テクノロジー開発

「移動しづらい」「情報がうまく届かない」——そんな声を、障害のある方たちからたくさん聞いてきました。生存学研究所では、そうした日常の困りごとを見えるかたちにして、どうすれば解決できるかをみんなで考えるプロジェクトに取り組んでいます。

たとえば、「キャンパスは街の縮図」と考えて、大学の中や駅などで、移動しやすさを実際に調べたり、車椅子に乗ってみる体験イベントを開いたりしています。さらに、車椅子メーカーやデザイナー、学会とも協力して、「車椅子が自然に暮らしの中にとけこむライフスタイル」も提案しています。



支援テクノロジー 開発

03

立命館生存学研究所 叢書の刊行

04

本にして伝える --立命館生存学研究所叢書の刊行

わたしたちは、研究の成果をわかりやすく伝えることにも力を入れています。そのひとつが、「研究の現場」というウェブ連載です。ここでは、生存学に関わる研究者や実践者や当事者が、それぞれの立場から自分の言葉を語ってきました。それらをまとめて、2025年には、臨川書店から『知は分断をこえる』という本が刊行されました。『知のフロンティア』（2017）、『知と実践のブリコラージュ』（2020）につづくシリーズ第三弾です。

研究というと、かたくなしいイメージがあるかもしれませんが。私たちの身のまわりにある課題や、いのかにかかわるテーマを、多くの人とともに考えていくために、本としていねいに伝えていきたいと思っています。



2 つの刊行雑誌

Two Academic Publications

『立命館生存学研究』



『立命館生存学研究』は、生存学研究所が発行している学術雑誌です（査読制度有り）。「障害病異」など、私たちの誰もが向き合う「生きること」の問いについて、多様な角度から掘り下げた論考を掲載しています。2009年から2016年にかけて刊行された『生存学』（生活書院）を受け継ぎ、2018年に新たにスタートしました。現在は第8号まで発行されており、どなたでもオンラインで読むことができます。

紀要『立命館生存学研究』
[www.ritsumeai-arsvi.org/
publication/seizongaku-kenkyu/](http://www.ritsumeai-arsvi.org/publication/seizongaku-kenkyu/)

Ars Vivendi Journal



Ars Vivendi Journal
[www.ritsumeai-arsvi.org/en/
publication/ars-vivendi-journal/](http://www.ritsumeai-arsvi.org/en/publication/ars-vivendi-journal/)

Ars Vivendi Journal (AVJ) は、2011年に創刊した英語の電子ジャーナルです（査読制度有り）。世界のさまざまな地域から「障害病異」に関する論文が投稿されています。AVJは、研究者のみならず、患者や家族、ケアの提供者など多様な人のプラットフォームとなることを目指しています。また、生存学研究所が日本で開催したイベントの報告も掲載されており、日本語にアクセスしにくい人、遠くにいて参加できない人にとっても、情報を共有するための大切な橋渡しとなっています。

メンバー 一覧
[www.ritsumeai-arsvi.org/
memberlist/memberlist/](http://www.ritsumeai-arsvi.org/memberlist/memberlist/)